

Contents

- 特集：巻頭インタビュー「九州大学で活躍する女性たち」
- 新シリーズ：室長コラム
- 仕事と家庭の両立・育児体験記「ワクワク・ライフ・バランス」
- イベント開催報告
- 数字でみる九州大学と男女共同参画（第5回）
- 研究補助者雇用支援について
- 男女共同参画推進室 蔵書紹介
- ベビーシッター派遣事業割引券を利用できます
- 編集後記

特集 巻頭インタビュー

九州大学で活躍する女性たち



大学院理学研究院

濱村 奈津子 教授

略歴／

2001年にオレゴン州立大学でPh.D.学位取得。モンタナ州立大学、ポートランド州立大学、愛媛大学を経て2015年より九州大学大学院理学研究院所属。現在は、同研究院の国際推進室長を兼任し部局の国際化に関する活動を進めている。専門は、微生物生態学、微生物地球科学。

環境問題に微生物学的視点で取り組む

専門は微生物生態学、微生物地球科学です。特に微生物と環境、微生物同士の相互作用に着目しています。現在は、微生物の代謝を利用して、環境中の汚染物質を浄化し毒性を低減化する技術につながる基礎研究を行っています。これをバイオレメディエーションといいます。環境中には重金属や猛毒性の強いヒ素など

の元素が存在する場合がありますが、微生物の代謝によって、より環境中に溶出されにくい形態にすることができます。微生物の代謝を理解することで環境中の汚染物質の挙動を制御できるのではないかと考えています。

研究の魅力

どんなに忙しくても、フィールド調査はワクワクします。微生物たちが生きている自然環境に身を置くことで色々なアイデアも湧いてくるし、これまでにないデータが得られたときは、本当に楽しいです。微生物も生き物なので予測と違う結果になることもあります。得られたデータを真摯に受け止め、そのデータがもつ意味を考えると、そこから新しい道が開けることもあります。

日本はまだ女性研究者は少ない

自分の専門はバイオ系なので、女子学生の数は比較的多い方でした。学部でもクラスの半分は女子学生でしたし、海外の大学院でも女性教員の数は比較的多かったと思います。そのため、あまりジェンダーバイアスを意識したことはありませんでした。一方で、帰国後に目にした日本では、まだまだ女性研究者の数が少なく、良くも悪くも「女性」であることが目立つようです。また、悪意のない発言のなかにも、ジェンダーバイアスを強く感じるこ

がありました。しかし、横の繋がりやネットワークを広げ、お互いに協力して盛り立てることもできるのではと思います。

型にはまらず、自由な発想で考える

多様な生き方が認められる社会になること、これが一番大切だと感じます。女性研究者や女子学生の育成に関しては、身近なロールモデルを通じて、理系の魅力やキャリアパスを伝えていくことも大切です。女性研究者の皆さん、学生の皆さんには、是非とも“Think outside the box（既成概念にとらわれない）”の言葉どおり、自由な発想で物事を見てほしいですね。また、日本から飛び出して海外を経験したり、自分の専門とは異なる分野にふれ考えの枠を広げてほしいと思います。そしてチャンスがあればやりたいことにどんどん挑戦してほしいですね。



オクラホマでのフィールド調査

室長コラム

New!

理系分野の女性研究者

ダイバーシティ担当理事・男女共同参画推進室長 神崎 智子

今号から、このコーナーで、「男女共同参画」に関するキーワードやポイントについてお話しします。1回目は、なぜ「男女共同参画」が必要かについてです。

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に・・・利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」（男女共同参画社会基本法第2条）です。

性別役割分担意識や慣例により、女性が進出することが限られている分野が多いため、女性が平等に力を発揮できるよう、その機会を確保しようというものです。そして、不平等がある場合には、解消のために、必要な範囲内において、機会を積極的に提供すること（積極的改善措置）が定められています（同法第2条）。これを受けて、女性活躍推進法ができ、男女雇用機会均等法（第8条）にも積極的改善措置が定められています。学術研究分野、特に理系分野は女性が少ない分野であり、女性研究者を増やすことは、法律上の要請です。

実社会においても、理系の女性研究者がいないことは重大な問題です。人々の暮らしや経済を支えるために、科学技術が欠か

せませんが、女性がいなければ、データの収集や分析、影響評価などにおいて「女性のデータ」や「男女の違い」ということが考慮されず、偏った結果が生じるという問題があります。実際に、シートベルトの衝突実験に男性の人形が使われた結果、女性が重傷を負う確率が高く、胎児死亡も多いという命に係わることも起きています。

テクノロジーは中立、科学は中立という思い込みの中で見過ごされてきた性差に目を向け、AIの基盤となる女性のデータを収集するには、そこに女性がいることが必要です。1人2人ではなく、女性の意見が通る数（30%以上と言われます）が確保されるか、意思決定を行うポジションにいることが必要です。

このような考えは今や世界標準で、学術誌への投稿や助成金申請に性差分析を義務付けるところもあります。また、男性だけのチームより男女混成チームの方が、より高いパフォーマンスを出すという研究も多くあります。人類の半数を考慮しないとどうなるか、さらに詳しく知りたい方は、キャロライン・クリアド＝ペレス『存在しない女たち』（2020年）がおすすめです。

理系分野の男女共同参画は、人類や社会の将来にかかわる課題であるという認識のもと、それぞれの部局で、女性研究者の採用や若い女性研究者の育成にご尽力くださいますようお願いいたします。



仕事と家庭の両立・育児体験記

ワクワク・ライフ・バランス

「育児は最高の娯楽」

総務部広報課広報係 主任 迫 哲也

2022年4月に第1子となる娘が生まれ、2ヶ月半の育休をいただきました。

語弊があるかもしれませんが、「家事や育児を頑張るため」というより、「今しか経験できない娘の育児を最大限楽しむ」という意識からです。「娘が小さい時にもっと遊んでおけばよかった」と後悔した20年後の自分が過去にタイムスリップしてきたのが今」というイメージで毎日を過ごしています。

そもそも家事は、育休に関係なく普段から分担するものだと思います。ただ、当然ですが出産後の妻の体力面は十分に考慮すべきです。0歳児が昼夜リズムを獲得するまでは24時間体制なので、夫婦が同時に体力・睡眠時間を削られて共倒れするのを防ぐために工夫が必要でした。例えば、授乳は妻しかできませんが、寝かしつけは私にもできますので、何の歌だと寝つきが良いか実験しながらスクワットの日々でした。妻より寝かしつけ上手なのではと調子に乗った時に限って全然寝つかず…笑

また、育児は「頑張る」ものとも思いません。もちろん大変ですが、それも含め今しか経験できない「最高の娯楽」だと思います。ずっと生きがいであった野球をやめるほどのインパクトが育児にはありました。娘の頭皮の匂いを嗅ぐと疲れが吹き飛びます。

ネットを見ていると「娯楽とか言う夫に限って何もしない」「子守と育児は違う」という辛辣な意見も見かけます。少なくとも妻にだけはそう思われたい気をつけたいと思います。



イベント開催報告 1

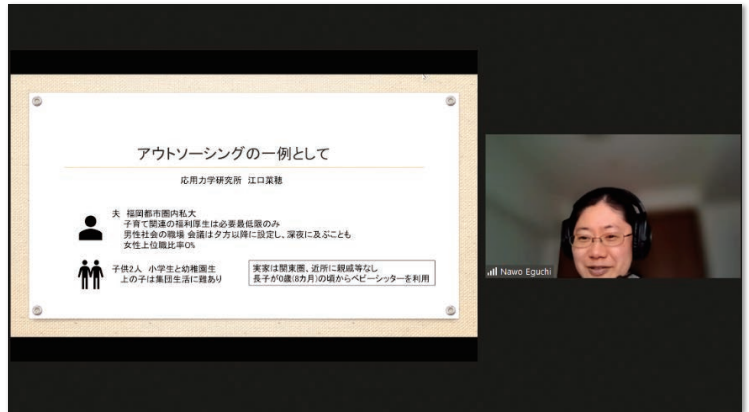
臯月ランチタイム交流会「ベビーシッター利用者に聞いてみよう!」を開催しました

令和5年5月19日(金)、臯月ランチタイム交流会を開催しました。今年度の最初のテーマは「ベビーシッター利用者に聞いてみよう!」です。当日はオンラインで20名の方に参加いただきました。

九州大学では、平成30年度から「ベビーシッター派遣事業割引券」を発行して、ベビーシッターによる在宅保育サービス事業の利用料金の一部を助成する事業を行っています。今回は、本制度を実際に利用されている本学応用力学研究所の江口菜穂准教授にお話を伺いました。

江口准教授は、まず利用者としての立場から、制度利用に至った経緯やシッター会社の探し方、定期利用とスポット利用の違いなど、ご自身の経験談を紹介されました。また、本制度を利用するメリットとして、育児のプロであるシッターと子育ての悩みを共有することができること、安心して仕事に取り組めるようになることを挙げられました。さらに、子育てに関わる誰もが笑顔でいられるよう、こうしたアウトソーシングは必要な手段であると説明されました。

最後に、ご講演後の意見交換の時間では、参加者との活発なやり取りが行われました。



イベント開催報告 2

文月ランチタイム交流会「最近よく眠れていますか? 良い睡眠でココロもカラダも健康に」を開催しました

令和5年7月25日(火)、文月ランチタイム交流会を開催しました。今回のテーマは「最近よく眠れていますか? 良い睡眠でココロもカラダも健康に」です。当日はオンラインで26名の方に参加いただきました。

睡眠は気候やストレスの影響を受けやすく、眠れない・夜中に目が覚めてしまうといった睡眠時のトラブルが、様々な身体的・精神的不調を引き起こすともいわれます。今回は、本学キャンパスライフ・健康支援センターの松尾寿栄教授を講師に、良質な睡眠をとるためのセルフケアについて学びました。

松尾教授は、睡眠のメカニズムや効果、睡眠を司る「メラトニン」と「セロトニン」という二つのホルモンと神経伝達物質について説明されました。また、睡眠は心身の健康を保つうえで欠かせないものであり、老化防止や記憶の定着、メンタルの安定に大きく作用していると述べられました。

最後に、質疑応答の時間が設けられました。参加者からは睡眠に関する相談や質問が寄せられ、あらためてそれぞれが自分の睡眠について見直すよききっかけとなりました。

イベント開催報告 3

R5オープンキャンパスに出展しました

令和5年8月5日(土)、本学伊都キャンパスにて開催されたオープンキャンパスに、男女共同参画推進室からも出展しました。今回は「将来の夢に向かって!~キャリアデザインってどんなこと?」と題して、本学の教員や学生が、イベントに参加した高校生のキャリアを描くお手伝いをしました。なお、当日は高校生36名のほか、多数の保護者の方にもご来場いただきました。

参加した高校生からは、将来の進路やキャンパスライフ、高校時代の過ごし方などについて多くの質問が寄せられました。これに対して、本学学生は、事前に準備していたワークシートを使いながら高校生の悩みに具体的なアドバイスを行いました。

終了後のアンケートでは、参加した高校生から「学校では聞きづらいことや、実際に大学に通っている人の視点での話を丁寧にくださったので、とてもおもしろかったです」「自分の将来を明確にしたいと話す、大学に入ってからでもいいと言われ納得しました」「受験勉強のモチベーションにもつながり、とても良い時間になりました」などの感想が寄せられました。また、高校生の対応を行った学生からも「自分が高校時代頑張ってきたことや、自分の知っていることを役立てることができて良かったです」「進路はもちろん、大学生と話すことが高校生にとって貴重な機会になっていると感じました」などの感想が寄せられました。

数字でみる九州大学と男女共同参画

第5回

6

この数字は、本学が実施する「ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修 (SENTAN-Q)」を修了して、令和5年9月1日までに教授へと昇任した女性教員の数です。

SENTAN-Qは、令和元年に文部科学省の補助事業として開始しました。本研修は、部局から選出された優秀な女性・若手研究者を対象に、世界と伍して戦える実践的な研究教育力を修得させるための国際研修プログラムです。研修修了後は総長から認定書が交付され、原則1年以内に1段階の内部昇任が行われます。

すでにSENTAN-Qは開始から5年目を迎えましたが、これまでに研修を修了した20名の中から、女性教授6名が誕生しました。また、本研修の相乗効果もあって、通常人事における女性教員の採用・昇任も増加し、令和5年5月時点で女性教授の数は58人 (8.5%) となりました。新たに5期生を迎え、ますます盛り上がりを見せるSENTAN-Qです。今後も女性研究者の活躍促進に向けた環境整備が求められます。

研究補助者雇用支援について

本学では、平成19年度より研究補助者雇用支援を実施しています。これは、出産・育児や介護などのライフイベントおよび社会貢献活動などによって、研究時間の確保が困難な研究者を対象に、当該研究者の指揮命令下で研究支援業務に従事する研究補助者を雇用するための経費を支援するものです。当初は女性研究者を対象としたものでしたが、平成28年度から、父子家庭またはパートナーと別世帯で子どもを養育する男性研究者まで支援対象が拡充されました（「シングルファーザー支援」）。

本制度は、申請資格や支援期間によって次の2つに分けられます。

1 研究補助者雇用支援（短期）

- 申請資格：本学に所属する教員又は学術研究員（週20時間以上研究に従事する者）
* 男性の場合は年度末で39歳以下であること。
詳細は募集要項をご覧ください。
- 支援額：1期につき41万円（上限）
- 支援期間：6ヵ月間
- 募集：年2回（春季および秋季）

2 研究補助者雇用支援（教授・准教授育児期支援）

- 申請資格：本学に所属する女性教員で、本学に教授または准教授として着任後出産した者
- 支援額：100万円（上限）* 金額は予算の都合による
- 支援期間：1年間
* 翌年度の募集で再度申請することも可能（但し、最長2年まで）
- 募集：年1回

お問い合わせ

研究・産学官連携推進部 研究企画課研究企画係
E-mail: kissen@jimu.kyushu-u.ac.jp Tel: 092-802-2324

男女共同参画推進室 蔵書紹介

『女性研究者支援政策の国際比較 日本の現状と課題』

科学技術分野における女性の参画が遅々として進まないのはなぜか。本書は、日本、欧米諸国、中国の女性研究者の実態、およびその参画拡大に向けた政策の国際比較を通じて、女性研究者支援政策のよりよいあり方を検討する。

- 出版日：2021年11月30日
- 河野銀子／小川眞里子 編著、横山美和／大坪久子／大濱慶子／財部香枝 著
- 出版社：明石書店
- 発行形態：単行本 ・ ページ数：207p
- ISBN：9784750353029

https://honto.jp/netstore/pd-book_31369546.html



ベビーシッター派遣事業割引券を利用できます

教職員の仕事と子育ての両立を支援するため「ベビーシッター派遣事業割引券」を発行しています。詳細は下記のとおりです。

- * 利用対象者*
九州大学の教職員（非常勤を含む）。配偶者も就労していること。（例外：配偶者が入院等により就労の困難な場合など）
 - * 対象児童年齢*
0歳から小学校3年生まで（条件を満たせば小学校6年生まで利用可能）
 - * 割引金額*
1枚あたり2200円。対象児童1人につき、1日に2枚まで使用可能。なお、1家庭1ヵ月24枚まで、1年間280枚まで。
- (注) 令和4年度より電子割引券のみの対応となります。

お問い合わせ 男女共同参画推進室

E-mail: sitter@danjyo.kyushu-u.ac.jp
Tel: 092-802-2034
<https://danjyo.kyushu-u.ac.jp/info/sitter.php>



編集後記

SENTAN-Qの成果として女性教授の増加が「数字で見える」ようになったのは、大変喜ばしいことです。今後も男女共同参画の取り組みにご協力をお願いします。男女共同参画推進室は、新しい室長を迎え変化の年になりそうです。

編集

九州大学男女共同参画推進室 企画広報環境整備部門 企画・広報WG
伊藤 裕之（芸術工学研究院 教授） 森田 陽介（数理学研究院 准教授）
安河内 友世（歯学研究院 准教授） 相良 祥子（男女共同参画推進室 職域限定専門職員）

読者の声 /
をお聞かせください。
アンケートにご協力をお願いいたします。

